

①幼児エリア

幼児（1歳～3歳）を対象としたエリアを遊具広場北側に設定します。サークルなどにより、外部と遊ぶ空間を仕切り、舗装材を安全面に考慮した材質にするなど、幼児でも安全に遊べる環境を整備します。併せて、幼児の見守り空間として屋根などを整備します。



参考：遊具メーカーカタログ

■ 幼児エリアのイメージ

②児童エリア

児童エリアは、遊具広場の中央部に配置し、本公園の象徴となる複合遊具を設置します。整備に当たっては、周辺の公園環境に配慮した外観・意匠とし、幅広い年齢層（3歳～12歳）が楽しめる機能を極力取り入れます。

また、複合遊具には、運動機能（アスレチックなど）を有するものとします。



参考：笠松町運動公園

■ 複合遊具のイメージ

③親水エリア

水遊びができる噴水などの施設を整備します。なお、配置は、過去に噴水が設置されていた場所を検討します。



参考：東海市太田川駅

■ 親水施設のイメージ

④芝生広場エリア

既存の樹木や芝生を生かし、ベンチを設置することで、大人から子どもまで自由に利用できる広場を整備します。また、和風園地への回遊性を高めるための人道橋の新設や芝生広場より見渡せるふれあい緑道にあるフォリー（水鳥）の利活用を検討します。



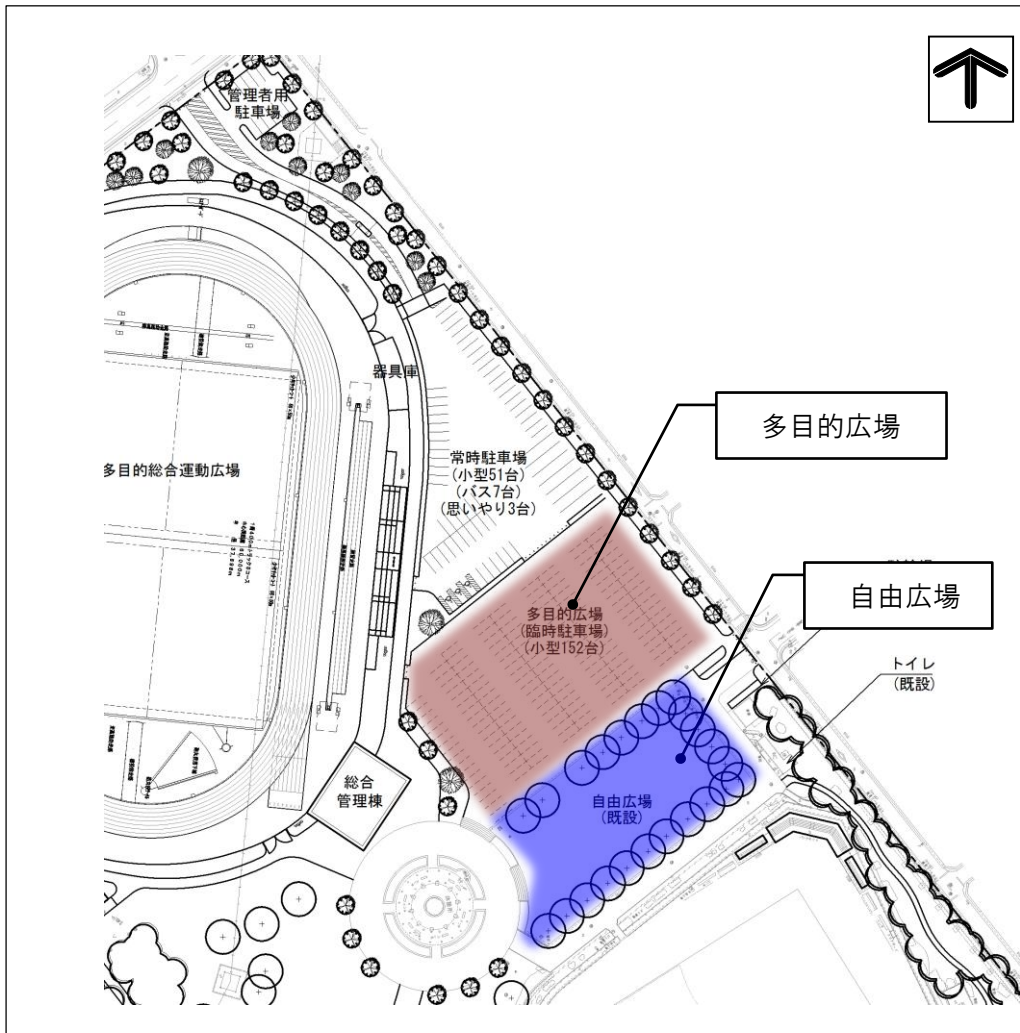
■ フォリー（水鳥）

3-2-8 多目的広場・自由広場

(1) 整備方針

- ・スポーツや文化イベント、防災訓練などに活用できる多目的空間とする。
- ・多目的な活用を視野に入れ、自由広場を芝生広場とする。
- ・災害時に活用できる空間とする。

(2) 配置



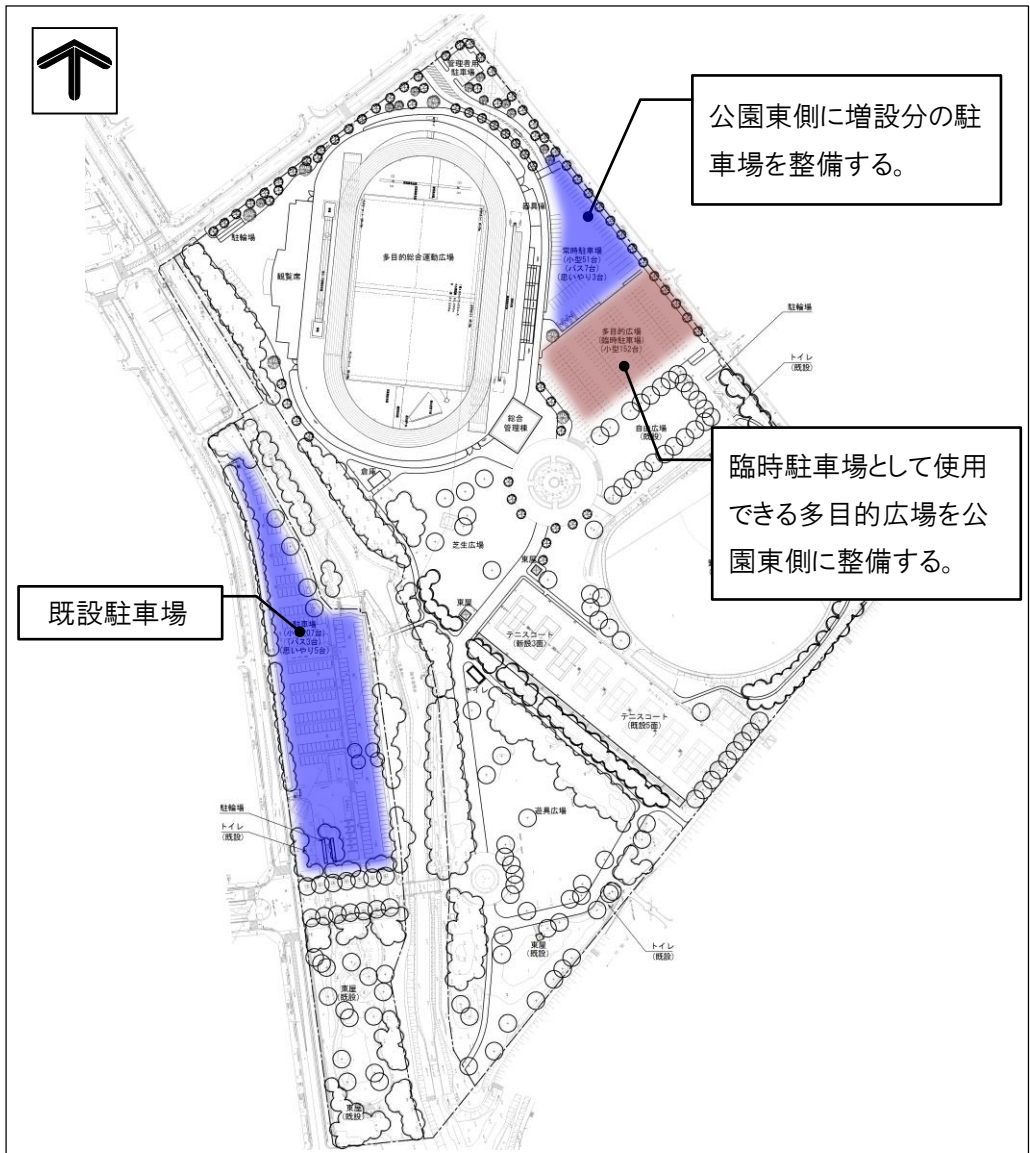
■ 配置図

3-2-9 駐車場

(1) 整備方針

- ・陸上競技大会を想定して算出した必要駐車台数(小型車:400台以上、大型車:10台以上、思いやり駐車場:8台以上)を確保する。
- ・利用者の利便性を高めるため、駐車場の駐車柵を拡張する。
- ・臨時駐車場として使用できる多目的広場を公園東側に新設する。
- ・駐車場の有料化を検討する。

(2) 配置



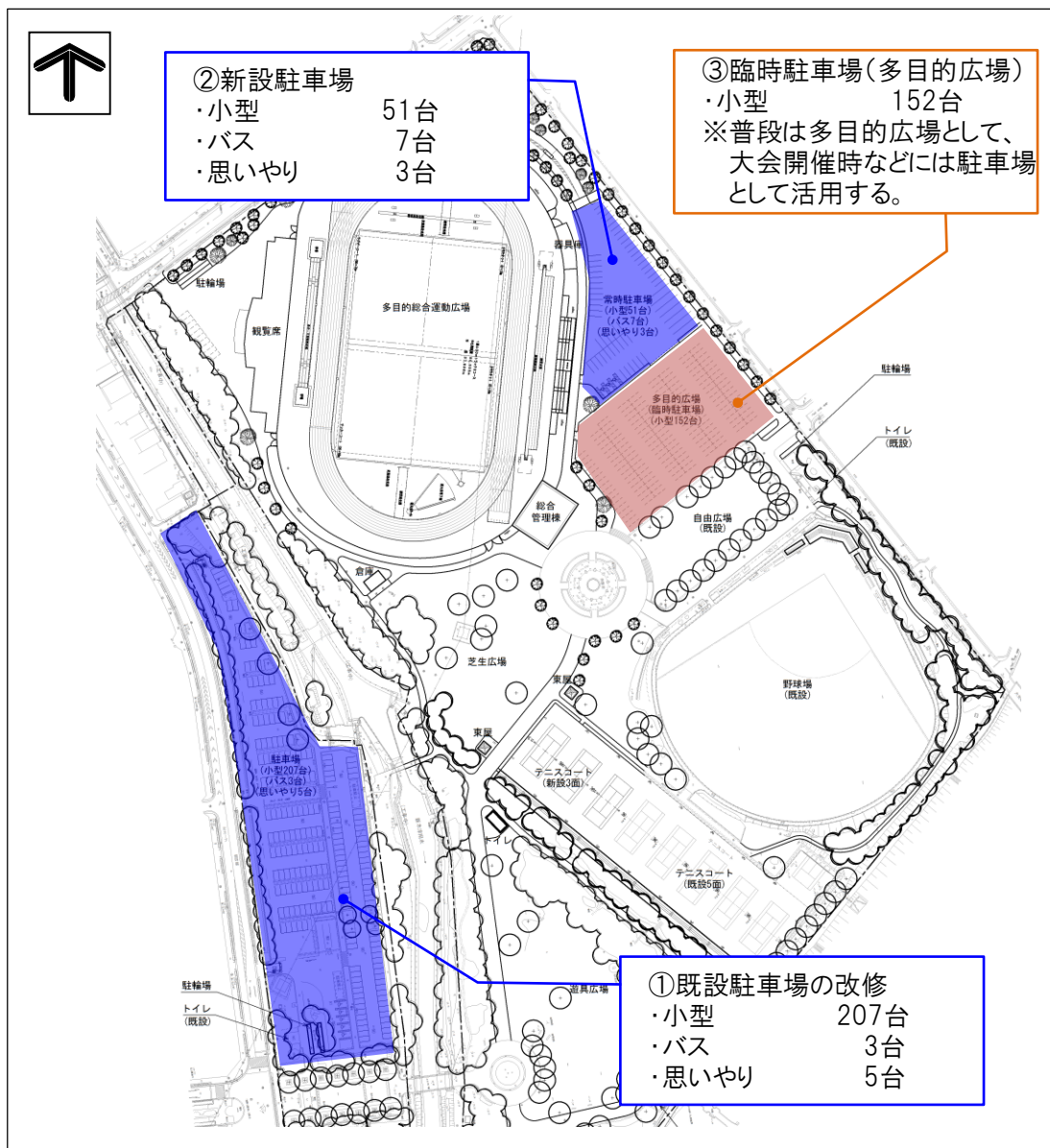
■ 配置図

(3) 概要

既存駐車場は、1台当たりの駐車枠の幅を拡張します。また、必要駐車台数を次のとおり確保します。

表 駐車場の概要

	①既設駐車場	②新設駐車場	③臨時駐車場	合計	必要駐車台数
小型自動車	207	51	152	410台	400台以上
思いやり	5	3	-	8台	8台以上
大型車(バス)	3	7	-	10台	10台以上



■駐車場の概要

(4) 駐車場有料化の検討

多目的総合運動広場の整備やテニスコートの増設、子どもの外遊びの場の充実などにより、これまでより駐車場が混雑することが想定されます。公園利用者のための駐車台数を確保すること及び受益者負担の観点から駐車場の有料化を検討します。

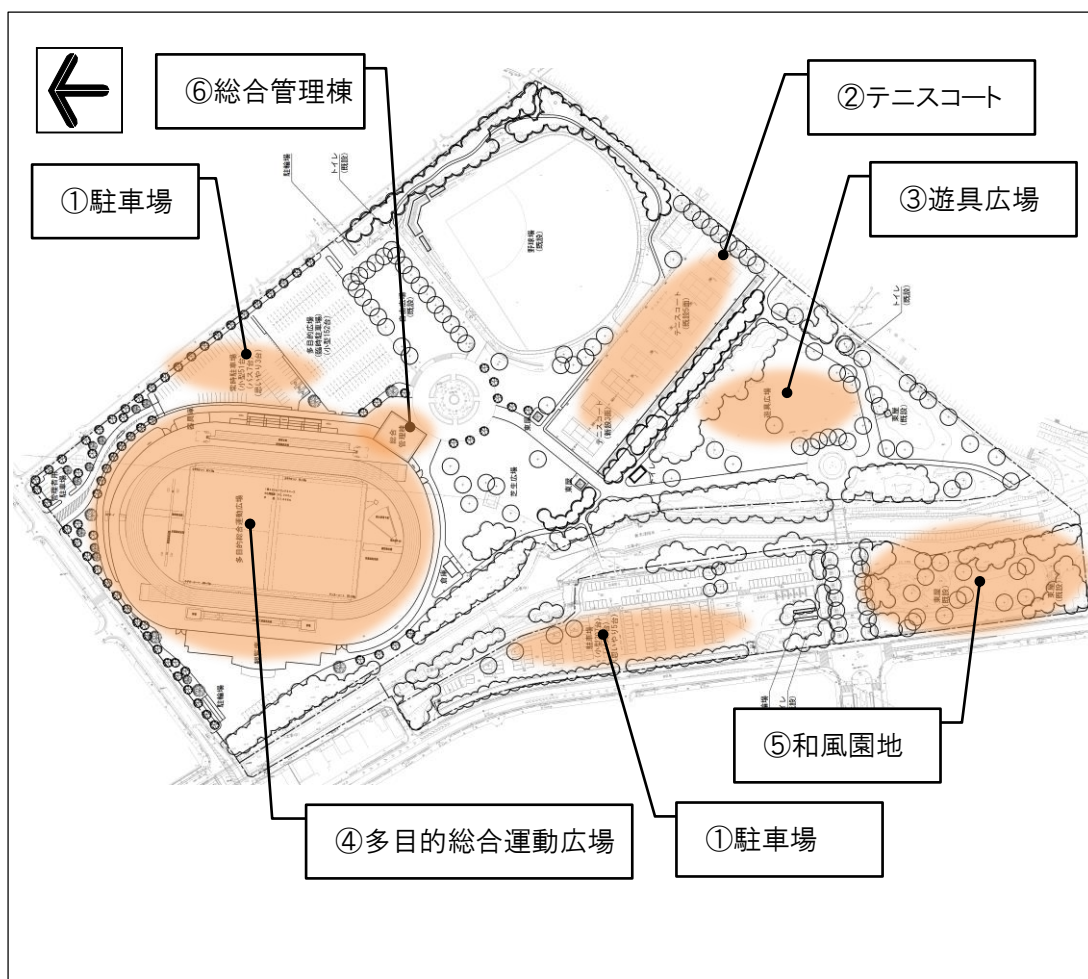
3-2-10 民間活力導入

(1) 基本方針

・民間活力導入の可能性がある施設や取組を検討する。

(2) 民間活力導入候補施設

本公園内で民間活力導入の可能性がある候補施設は、次の6つの施設を考えています。



■ 民間活力導入候補施設

3-2-11 雨水流出抑制

(1) 整備方針

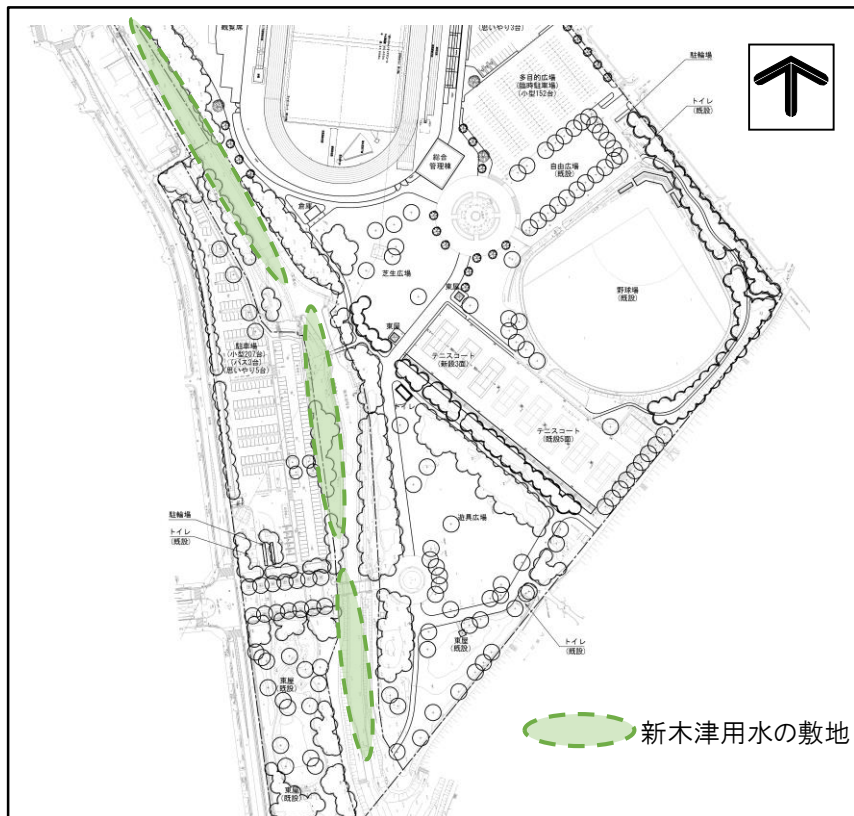
- ・春日井市雨水流出抑制に関する基準に基づき雨水流出の抑制を行う。
- ・降雨時に整備後の区域から出る水量が整備前と比較して増加しない規模とする。
- ・雨水貯留施設の大きさは、流出量の差分を2時間貯留できる規模とする。
- ・雨水流出量の計算は、愛知県開発許可基準に基づいて行う。

(2) 雨水貯留施設の検討

雨水貯留施設は、低い箇所に一時的に雨水を貯留する表面式と地下に雨水を貯留する地下式が考えられますが、詳細は設計段階で検討します。

3-2-12 新木津用水敷地の活用

新木津用水は、朝宮公園に隣接して流れており、その敷地を公園と一体利用することで、より公園の魅力を高めることができます。新木津用水の敷地の利用について、管理者との協議を進めます。



3-3 アクセスや動線の検討

3-3-1 公園内の動線検討

(1) 基本方針

- ・多目的総合運動広場の整備に伴い、歩行者のみならず、維持管理車両や自販機飲料水の搬入、競技器具・イベント機材搬入車両の通行にも留意した経路・乗入口とする。
- ・来園者の誰もが公園一帯を楽しく快適に歩行・散策することができる園路とする。

(2) 移動手段及び用途別公園内動線の設定

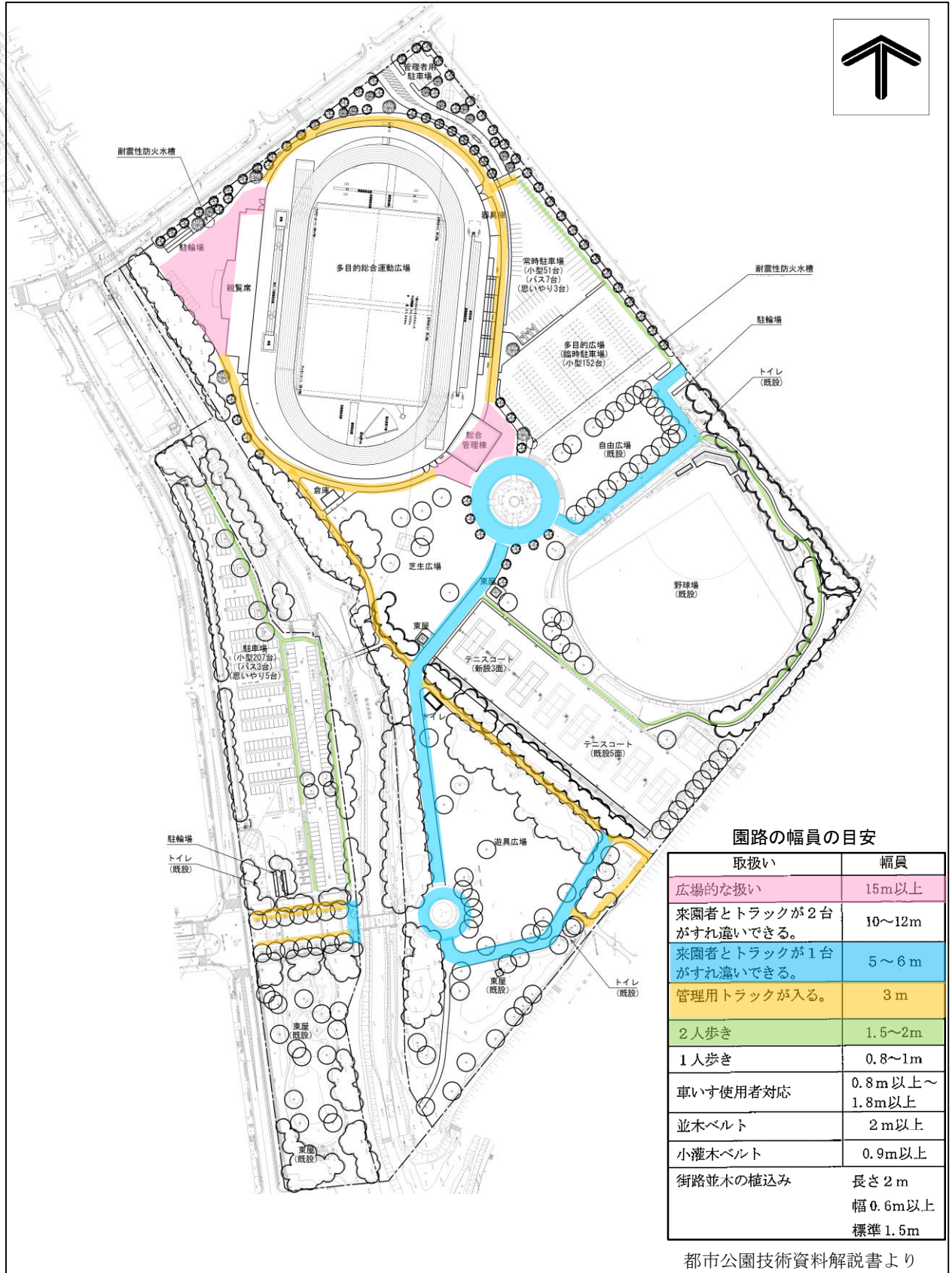
公園内で想定される移動手段及び用途は、次のとおりです。

表 移動手段及び用途

手段	対象	備考
自動車	来園車両	一般小型自動車等
	公園管理車両	軽・小型車バン、トラック等
	搬入車両	自販機飲料配送車、機材搬入車等(大型トラック)
	緊急車両	救急自動車、消防自動車等
自転車	公園利用者	公園内では自転車の走行や通抜けは行わない
歩行者	一般健常者	通常歩行者全般
	歩行困難者	車椅子利用者、ベビーカー等

(3) 園路の幅員の設定

園路幅員は、次のとおり設定します。



3-3-2 公園周辺のアクセス経路の検討

(1) 基本方針

- ・周辺の居住環境や交通環境に配慮したアクセス経路を設定する。
- ・陸上競技場を整備した場合の大会開催時やイベント時に想定される大型乗合自動車や機材などを搬入するためのトラックが主要幹線道路から公園へ円滑にアクセスできる経路を確保する。
- ・公園への大型車のアクセスが1か所に集中することを防ぐため、駐車場を分散配置し、出入口を新設する。
- ・救急車や消防車等の緊急車両が速やかに公園に到着でき、かつ搬送先として想定される病院等へも速やかにアクセスできる経路を確保する。
- ・公園北側の市道110高山線に対して駐車場の乗入口を新たに設置する。

(2) 交通手段及び車種・用途別公園アクセス動線の設定

本公園への移動手段及び用途は、次のとおりです。

表 移動手段及び用途

手段	対象	備考
自動車	一般車	乗用車・マイクロバス等の小型車
	大型乗合自動車	大型観光バス等
	イベント・災害対応車両	器具・機材搬入トラック等大型車
	JR 春日井駅、勝川駅からの公共交通	名鉄バス、かすがいシティバス
	緊急車両	救急自動車、消防自動車等

(3) 公園周辺の居住環境や交通環境に配慮すべき事項

公園周辺の道路は、公園東側に隣接した住宅地向けの細街路(市道3723号線)において、通過交通の流入が確認されていることから、陸上競技大会時やイベント時に公園駐車場へと向かう交通流が、これらの通過交通の助長とならないように、新設を予定する東側駐車場の配置や出入口の位置を決定します。

周辺の居住環境や交通環境への影響を軽減させるための車両の公園出入口位置や駐車場配置を次頁に示します。

【回避すべき周辺交通課題事象】①～④

周辺の居住環境や交通環境に配慮した車両の公園出入口位置や駐車場配置



①市道 110 高山線の交通混雑



②細街路への進入車両の増大



③広幅な市道 3730 号線の路上駐車による交通流への支障



④市道 112 朝宮線の交通混雑

3-4 防災機能の検討

3-4-1 防災計画上の位置付け

朝宮公園は、災害時の広域避難場所として指定されており、広域避難場所としての一時的避難者の収容人員は52,200人と設定されています。朝宮公園への避難の対象となる災害は、洪水・地震・大規模火災・内水氾濫の4項目です。

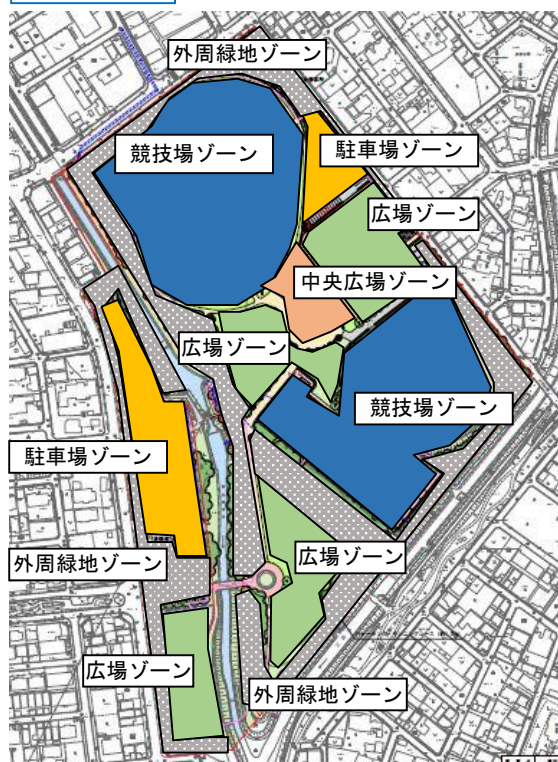
NO	施設名	住所	災害時連絡先	防災圏域	敷地面積 (㎡)	収容可能人員 (人) (2㎡/人)	地震	風水害	安全確保上の注意
1	二子山公園	二子町2-11-1	0568-81-5111	味美	25,017	12,500	○	×	水防法上の浸水想定区域内 (庄内川又は八田川)
2	朝宮公園	朝宮町4-1-2	0568-81-5111	西部	104,506	52,200	○	○	
3	中央公園	鳥居松町3-21	0568-81-5111	中部	16,378	8,100	○	○	
4	篠木公園	関田町1-41	0568-81-5111		11,600	5,800	○	×	水防法上の浸水想定区域内 (庄内川又は内津川)
5	落合公園	東野町宇落合池1	0568-81-5111	東野	170,740	85,300	○	○	
6	繁田公園	気喰町北2-312	0568-81-5111	高蔵寺	10,711	5,300	○	○	
7	中部大学グラウンド	松本町1200	0568-81-5111		23,415	11,700	○	○	
8	高森山公園	高森台8-4-1	0568-81-5111	東部	21,992	10,900	○	×	敷地西側の一部及び南側の一部が急傾斜地崩壊危険箇所

(出典:春日井市地域防災計画 様式・資料集)

広域避難場所: 指定緊急避難場所のうち、地震などによる火災が延焼拡大して地域全体が危険になったときに一時的に多くの市民が避難できる場所

【災害時の公園利用イメージ】

平常時



災害時



3-4-2 必要となる防災機能

(1) 防災備蓄倉庫

非常用食糧の備蓄やマンホールトイレ用の衛生器具やトイレ用テント、移動式ポンプなどの格納を想定した防災備蓄倉庫を整備します。

(2) 自然エネルギー照明及び非常用電源設備（商用電源消失時）

平常時に夜間照明の一部として使用する自然エネルギーを活用した太陽光発電や風力発電併用の照明灯（消費電力の少ないLEDランプ）を夜間の被災時で商用電源が使用できない場合を想定し、避難誘導の際にも使用ができるよう、出入り口・マンホールトイレ・井戸・公園内の階段付近に設置します。

【参考】災害向け自然エネルギー電源供給型園路照明の事例（太陽エネルギー）



公園内での導入事例写真



太陽エネルギーと風力の併用タイプ

(3) 非飲料用井戸及び手動式井戸ポンプ

植樹への散水や庭園内の池、親水機能などへの注水として使用するための非飲料用の井戸の設置を検討します。災害時には避難場所や避難者の公衆衛生を確保するための清掃用水やマンホールトイレの洗浄水として活用することができます。

【参考】公園内に設置されている井戸ポンプの事例



植栽の灌水に活用している事例

(4) マンホールトイレ

広域避難場所は、被災直後の一時的な避難場所であり、長期避難が想定されないため、通常、マンホールトイレを設置する必要はありませんが、断水時における近隣の在宅避難者のためのトイレや仮設住宅設置後の居住者のトイレとしての活用を見込むことができることから、マンホールトイレを設置します。

(5) 耐火樹による延焼防止樹林

延焼防止のため公園の外周部には、遮蔽率が高く、着火や引火のしにくい維持管理が容易な常緑樹木を主体とした防火性の高い樹種を植栽します。

【参考】防火性の高い植栽・樹木の例

植栽（防火樹林帯）の設計にあたっては、都市公園技術標準の修景施設工・植栽における計画留意事項を踏まえ、特に以下の事項を検討する。

1. 樹種（防火性、修景等）
2. 規格（樹高、葉張り等）
3. 密度・配植（遮蔽率、景観、見通し等）
4. 植栽地形態（盛土等）

1. 樹種

一般的に、防火樹木としては、遮蔽率の高いもの、着火しにくいもの、一部に着火してもその背後の枝葉への引火がしにくいものが好ましい。植栽の防火性については、一般的に以下の性質が認められている（表Ⅲ・19）。

表Ⅲ- 19 樹木の防火ランク(参考)

強度	常緑広葉樹	落葉広葉樹	針葉樹
A	イヌツゲ、キツタ、クチナシ、ゴムノキ、サザンカ、サンゴジュ、ジンチョウゲ、タラヨウ、ツバキ、トウネズミモチ、トベラ、ヒイラギ、モチノキ、ヤツデ	イチヨウ、エンジュ、オニグルミ、コナラ、シンジュ、スズカケノキ、トウカエデ、ユリノキ	アカマツ、イチイ、イヌマキ、カラマツ、コウヤマキ、スギ、ヒノキ
B	アオキ、アラカン、ウバメガシ、カナメモチ、キンモクセイ、クスノキ、サカキ、シキミ、シャリンバイ、シラカシ、スダジイ、タイサンボク、ネズミモチ、ヒサカキ、ビワ、マサキ、マテバシイ、モッコク、ヤマモモ、ユズリハ	アオギリ、イイギリ、イチジク、イヌエンジュ、ウメ、クスギ、クリ、クワ、ケヤキ、コナラ、シナノキ、トチノキ、ナツツタ、ナナカマド、ニセアカシア、ハクウンボク、ハクモクレン、フウ、ホオノキ、ミズキ、シダレヤナギ	イヌガヤ、カヤ、クロマツ、コウヨウザン、サワラ、タギョウショウ、トウヒ、ヒマラヤシーダ、ヒムロ、モミ
C		イタヤカエデ、エノキ、カツラ、サルスベリ、フジ、ボダイジュ、ムクノキ	エゾマツ、カイズカイブキ、トドマツ、ネズミサシ、ヒヨクヒバ

防災公園の計画・設計に関するガイドライン（案）（平成27年9月改訂版）より抜粋

(6) 耐震性防火水槽の設置

競技場建設に伴い、災害時の消防用水を確保するための耐震性防火水槽を2基以上設置します。